

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201106		
法人名	社会福祉法人 白水会		
事業所名	グループホーム マイライフ 1		
所在地	群馬県高崎市寺尾町1453-1		
自己評価作成日	令和2年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和2年2月21日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

マイライフは、家庭的な雰囲気の中で利用される皆様が安心して生活が過ごせるよう支援する事業所です。利用される皆様の希望が反映出来る仕組みのもとで定期的にケアプランを作成し、変化があればその都度立て直しを行い、ホームでの生活が快適に暮らせるよう支援しています。そして、何よりも健康に過ごして頂くために欠かせない栄養のバランスがとれた食事作りに力を入れ、美味しい食事を提供する事と、健康を維持する事に気配りして、利用者皆様が生き甲斐のある生活が送れるよう努力しています。緑豊かな小高い丘の中腹に立地しているマイライフ周辺は、四季の移り変わりの中で赤城山、榛名山、そして高崎市内が一望でき、野鳥のさえずりに心が和みます。そのような環境の中で、利用者皆様が顔色が良く表情も穏やかです。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高台に立地し、春には桜が満開になり緑も多く、遠方には谷川岳や浅間山が観え見晴らしのいい環境にある。そうしたなか散歩に出かけ近隣の方と親しくなり、入居者が皆、しあわせであるように願い、手作りのカエル(無事に帰る)とふくろう(福があるように)の陶器が頂き飾られている。入居者の重度化が進み日常的な外出が困難になってきているなかで、広いバルコニーに出てお茶をしながら外気に触れる機会を持ってもらうなど、単調になりがちな日常生活の回避に努めている。入浴時には、感染予防の視点として、足ふきマットを個々に準備して使用するなどのきめ細かな工夫がなされている。また、管理者は年2回職員一人ひとりと面談し、思いや希望等を確認して、個々のステップアップに繋げている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を周知するよう、朝会時に出勤職員全員で理念を唱え、利用者が地域の中で安心した生活が過ごせるよう支援している。	理念は開設当初からの内容であり、「基本的人権の尊重・安心できる生活支援」等を掲げ、毎日、朝会終了後に全員で理念を唱和し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が開催する花見会に地域の方達を招待したり、地域の行事にも参加させて頂いている。その際、地域での活動状況等を伺い地域との繋がりに努めている。	事業所の立地状況から近隣住民との交流が取りにくいことから、日頃は、隣接する養護老人ホーム松風園と合同で、どんどん焼き・餅つき・花見などのイベントを行っている。松風園と合同でのバス旅行には、近隣の方々の参加も呼びかけるなど、地域との交流の場作りに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のファミリーパークに散歩へ出掛け、地域の方々と挨拶しているうちに知り合いとなり、グループホームでの事例を交えて認知症高齢者の問題点等の説明を行うと、関心を持って質問される方々があり、皆様に少しでも認知症を理解して頂けるよう分かり易く説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時には、地域代表者・長寿社会課職員・安心センター職員・家族の方達に参加して頂き、事業所側より現況報告を行い参加者には忌憚のない意見を出して頂き、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努力している。	2ヶ月に1回会議を行い、主に管理者が事業所の行事報告や今後の予定を説明している。家族は、2ユニットで交替で出席している。市役所と安心センターも交替で出席しており、両者が欠席の時は書面出席のこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時では長寿社会課職員と安心センター職員が輪番制で出席される為、利用者が役立つ質問をして利用者支援に活かせるよう努めており、生活保護を利用されている利用者に対しては、社会福祉課の職員と連絡を密に行い協力関係を築くよう努めている。	毎月の利用者人数の報告や介護保険の申請と生活保護の件での相談などで介護保険課に出向くなど、市との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、連絡会議時に「身体拘束廃止委員会」を開催し、フィジカルロック・スピーチロック・ドラックロックの3つの魔のロックが行われていないか確認を行い、職員会議時には全職員に報告・確認を行い、身体拘束廃止のケアに取り組んでいる。	毎月管理職による連絡会議が開かれ、身体拘束についての話し合いも持たれている。特に、3つのロックがないか、ケアの場面でも確認している。身体拘束をしないケアを常に考え、「ヒヤリハット報告書」を活用して、安心・安全をどう確保するかにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、職員会議時等に高齢者の尊厳や認知症の理解を深めるよう啓蒙し、管理者・職員共に虐待防止の研修会に参加出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の利用者が成年後見制度を利用しており、弁護士や家族と事業所が三位一体となり利用者の生活支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は、重要事項説明書及び利用契約書を用いて十分な説明を行い、家族からの質問には懇切丁寧に説明を行い、不安のないよう理解・納得して頂けるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族来所時に、日頃の利用者状況を報告し、事業所に対する意見・苦情もお聞きしている。県国民健康保険団体連合会や市役所長寿社会課でも相談窓口がある事や各階に意見箱を設置してある事等も入居時に説明している。	面会の頻度は個人差があり、来所時は居室に出向きお茶のサービスの接待を行い、家庭に居た時の情報を聞いたり、事業所の状況や日常の様子を伝えて、来所時に得た情報を共有している。面会時のほか、電話・メール・手紙なども活用し意見の聴取を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる職員会議時に、職員が一人ずつ意見を述べる機会を設け、意見が反映出来るような機会を設けている。又、年に2回全職員に一人ずつ個人面談を行い、事業所運営に関する話や職員の悩み相談・意見・提案を聴く機会を設けている	法人の連絡会議を受けて、職員会議を開催し、出席した管理者等からの報告の後に、職員一人ひとりが発言する機会を持ち、出席できない職員はメモで意思を提示している。管理者は年2回職員全員と面接を行い、各種の意見等話し合うことで、職員のスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や個々の職員の努力や実績を把握して職場環境・条件の整備に努めている。又、各自が向上心を持って働けるよう、各種研修会にも積極的に参加出来るよう参加費用負担も支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の育成のため、各自が積極的に各種研修を受け学習、し実践することにより資質の向上に繋がることを説き啓蒙している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、社会福祉協議会や地域密着型サービス連絡協議会の各種研修会や懇親会に参加するよう努めている。同業者と交流することにより、ネットワーク作りにも発展し、切磋琢磨する事により、サービス向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家族に本人の家庭環境や生活歴を伺い、今までの生活との変化に不安を感じることなく生活が送れるよう、本人の真意を見極める事に配慮して本人との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、本人や家族等が困っている事や不安なこと、要望等を伺い、不安を軽減するような説明を充分行い、家族との関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族が現在一番望んでいることを見極めたサービス提供に主眼を置き、他のサービス利用も含めた対応も出来るよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と同居人の様に日常生活を過ごしながら、家事や行事等を通してお互いに学び合う関係づくりを築き、本人が出来ないことは支援して支え合う生活を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者・家族と三位一体となり、絆を大切にしながら本人の不安や要望を見極め、家族と共に本人を支えて行けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を尊重し、今まで大切にしてきた生活習慣が継続出来るように家族に協力して頂いている。また馴染みの人との関係が途切れないよう配慮している。	利用者が年々重度化するなか、個々の生活歴等を確認し、タオルのたたみなど出来ることを依頼している。近隣の方や友人など馴染みのある方の訪問もあるが、散歩に出た時も地域の方に声をかけ来所されるよう伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の性格を見極め、穏やかな共同生活が過ごせるようにレクリエーションや家事参加をして頂きながら利用者同士が関わり合えるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の都合や長期入院等で退居になった方にも、再度利用申し込みをして頂ければ馴染みの関係が続けられる事などを説明し、関係を断ち切らないよう配慮している。入院先にも、本人がより良い治療が行われるよう情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、本人の生活歴やライフスタイルを聴取し、本人や家族の意向に添うような関わりが出来るよう努めている。	入居の状況・環境など、その人のスタイルを把握し、発言の内容や反応、また、発語の難しい利用者にはホワイトボードによる意思確認など、生活環境に適合するよう、制限を設けることなく支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活歴を尊重し、入居によるダメージを受けないよう、サービス利用の経過を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活歴を踏まえた上で、入居後のライフスタイルを観察し、本人の有する力を引き出せるよう働きかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画立案前に本人や家族の意向を伺い、作成時には本人の意向を把握した上で作成会議を行い、すべての職員の意見が反映されるようにしている。会議に出席出来ない職員は、事前に文書提出する仕組みになっている。	月の初めに担当者会議でカンファレンスを行い、カンファレンスでの職員の意見をもとに介護支援専門員が計画立案している。介護支援専門員は3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価をしている。家族が来所した時に説明し、署名をいただいている。遠方の方には郵送し説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記入し、特記事項の発生等には特に念入りに職員間で情報共有を行っている。介護計画期間に応じた見直しはもちろんの事、介護計画作成直後であっても、必要であれば見直し新規立案を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々ニーズに対して、臨機応変のサービスを提供できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に参加される、地域代表者やあんしんセンター職員・長寿社会課職員と連絡を密に取り、地域資源を活用しながら本人が心身の力を発揮出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人及び家族の希望に任せているが、特に希望の医師が居ない場合は、事業所の往診医を紹介し、本人が安心してホームでの生活が過ごせるよう支援している。本人や家族の希望があれば、主治医の変更も支援している。	大半の利用者は、協力医の往診を受けている。他科等への通院は原則家族対応で、事業所側から医師に利用者情報を報告している。必要に応じて、医師や、養護老人ホーム松風園の看護師に相談する体制になっている。入院時は「情報提供用紙」を持参し、適正な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者が、体調の変化やバイタル上問題がみられた場合は、主治医に連絡を入れ看護師に症状を報告し対応の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院時は、安心して治療できるよう情報提供を行い、そして出来るだけ早期退院できるよう病院関係者との情報交換に努めている。又、そのような状況に備えて、病院関係者との関係づくりも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者入居時に、重度化や終末期の対応について、事業所の「できること・出来ないこと」を家族に理解して頂けるよう説明を行い、かかりつけ医にも事業所の事情を理解が得られるよう話している。	終末期ケアは、入居時に家族に説明している。職員への教育は管理者が直接指導しながら対応し、令和になって2例の看取りを行っている。重度化した場合、医師から観察などの指導もあり、2ユニットで協力しながら管理者に報告する体制になっている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域密着型連絡協議会が開催する救急救命講習を受講して、緊急時の対応に備えている。その他、緊急対応マニュアルがあり、職員が即座に対応出来る体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回、防災訓練(夜間想定も含む)を行い、毎回避難方法を検討している。消防署や併設施設に直接連動している自動火災報知器やスプリンクラーも設置しており、緊急時は隣接の老人ホームの職員も協力する体制になっている。	年2回の消防指導の避難訓練の他に、隣接する養護老人ホーム松風園と協力して、出火場所等を変えての自主避難訓練を実施後、反省文を作成している。近隣住宅が遠いため、住民の参加には至っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マイライフの理念である、利用者の基本的人権を保護する支援を実践し、プライバシーの保護に配慮している。	一人ひとりに声かけの工夫を凝らして、人格を尊重し、誇りや羞恥心にも配慮した支援が行われている。入浴時は極力同性介助で対応したり、職員を信頼できる身近な存在と感じてもらえるよう、尊厳を大切にされた支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では、本人の思いや希望を尊重した支援を重視し、自身で選んで決められるよう働きかけ、生き甲斐を持って生活出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを優先し、本人の希望に添った生活が過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの好みを尊重し、衣類にこだわりのある利用者には、好みの色やデザインの衣類を揃えるよう家族や職員が支援している。入居者の希望に合わせて、マイライフにて美容ボランティアを利用して頂き、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に利用者の生活歴等を伺い、本人が食事作りに参加する事に負担がないか確認した上で、食事作りや後かたづけに参加して頂き、生き甲斐を持った生活を実感して頂いている。	献立は、養護老人ホーム松風園の栄養士が立てている。食材は毎日業者に発注し、それをもとに3食職員が調理している。正月おせち料理の提供もあり、行事担当職員が工夫して行事食、パースデーケーキやフルーツを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士の献立を参考にして、栄養のバランスを考慮しながら食事作りを行っている。食事量や水分も1人ひとりの状態に応じた量が摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の入居者に応じた口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が定期的にトイレ誘導を行い、それぞれの利用者の排泄パターンを把握できるよう努めている。その他、排泄チェック表を活用し、トイレでの排泄動作の自立に取り組む、心身の状態に応じて布パンツ・リハビリパンツ・パット・オムツ等を使い分けている。	排泄チェック表を参考にして、定期的に誘導している。個々の利用者の特徴あるサインを見逃さないように関わっているが、誘導で排泄できる方・おむつの方・車椅子の方等状況は様々だが、一人ひとりの自信につながるよう、自立排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘が及ぼす悪影響を理解しており、予防と対応のための体操やマッサージを行い、水分補給や繊維質の多い食品を提供するよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、曜日を決めず毎日バイタルチェックを行い、体調の変化を見極めながら入居者の希望を尊重して支援している。入浴出来ない利用者は、清拭や足浴を行い清潔保持に努めている。	入浴は希望があれば入居者に合わせた支援を行っている。チェック表を用いてできるだけ同じ回数で支援ができる工夫を行っている。個浴であり一日に3~4人の入浴で、拒否する方は誘導するがやむえない時は足浴を行う等、個々に合わせた支援を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や生活習慣に合わせて、安心して休息・安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者のケース記録に薬剤情報がファイルしており、職員は薬の目的や副作用等を理解し服薬支援している。頓服薬は医師の指示に従い与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者入居時に職員が嗜好調査を行い、利用者の好き嫌いを把握して食事を提供している。又、季節の行事に参加して頂いたり、一人ひとりに適した家事やレクリエーションに参加して頂き、生き甲斐ある生活が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	事業所周辺や近くファミリーパークへ散歩に出掛けたり、花や野菜の水遣りしたり、時には車に乗って買い物やドライブに出掛けたり戸外に出掛ける支援をしている。家族にも声を掛けて、外出の支援を協力して頂いている。	利用者の重度化が進み、日常的な外出が困難になっているが、ワゴン車でドライブや買い物に出掛けている。また建物に付随しているバルコニーが広いので、外気浴を兼ねて屋外屋食や駐車場を利用してバーベキューをするなど、楽しみ方の工夫をした支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者には自己管理をして頂き、自己管理が出来ない利用者は、職員が預かり金を金庫に保管して、出納帳に収支を記入し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、家族や知人へ電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、天候に応じた照明の調節や空調管理を行い、BGMやテレビ音も随時調節している。玄関カウンターには季節に応じた花を飾り、掲示板や壁には利用者と職員合作の手作りの飾り付けを行っている。	共用空間は広く、食事が終わると同じフロアの一角でソファに腰かけてテレビを観ている方、食卓で洗濯物をたたんでいる方など、思い思いに時間を過ごしている。食堂兼居間に壁で仕切られた洗面所があり、口腔ケア時に配慮した支援が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング兼食堂は45畳程の広さがあり、利用者が自由に過ごせるスペースを確保している。ソファ、炬燵、テーブル椅子等、好みで使い分けて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、利用者が使い慣れた好みの家具をお持ち頂くと、利用者が安心して居心地良く過ごせる事を家族に説明し、お持ち頂くよう話している。	ベッドが用意され、整理するタンス・洋服掛けのハンガーなど、個々に応じて配置されている。ベッドの横には、転落防止としてマットレスが常備されている。ポータブルトイレや仏壇・縫いぐるみなどがある居室もあり、安心出来る居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はすべてバリアフリーで、ADL低下の際もホール・廊下・トイレ・浴室、すべてが車椅子が自由に操作出来る広さが保たれている。その他手すり・杖・歩行器もその方に応じて利用出来る広さが確保されている。2・3階ベランダでは、洗濯物や布団を職員が手伝いながら干せるスペースがある。玄関先には、茶話会が出来るようテーブルとベンチが設置してある。職員は、利用者の性格や生活歴を尊重して混乱や失敗を防ぐよう、その方に応じた支援を実践している。		